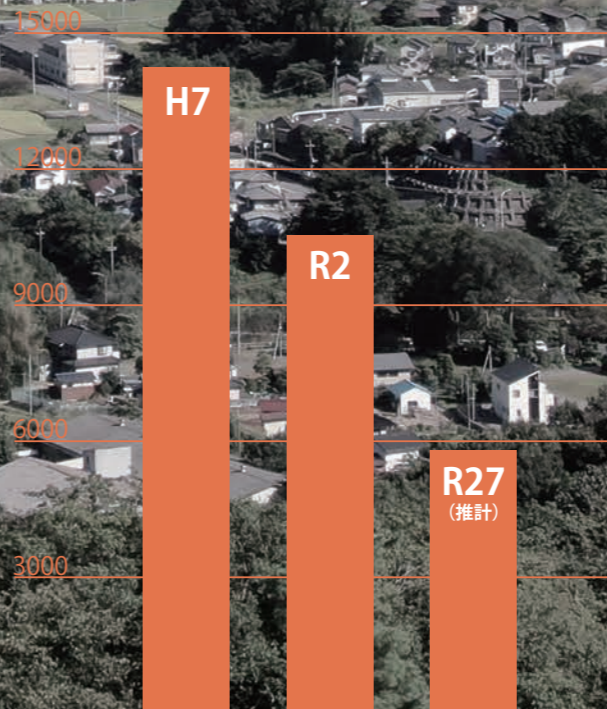


加速度的に

ときがわ町、人口減少中。



高校もない！
大学もない！
 都会のような働き口もない！
 …だから仕方ない？

誰もが感じている、ときがわ町の人口減少。これは避けられないことなのだろうか。あなたはどうか考える。

町の人口、加速度的に減少中！

ときがわ町の人口が減っている。令和4年に示された『ときがわ町過疎地域持続的発展計画』によると、平成7年には14,251人だった人口が、25年後の令和2年には10,540人となっている。この25年間で3,711人減少した。計画によると、今後の見通しとして、令和27年に5,798人になると推計されている。

これらの要因について、計画では「若年層の都市部への流出や全国的な傾向である少子化等の影響によるもの」と推測されており、「今後もこの傾向は続く」と見込まれる」とある。

それを補強するデータがある。令和3年度に実施された『ときがわ町総合振興計画』のアンケート調査では、「子どもが町外に別居している方へ、子どもが将来戻ってくるか」との問いでは、53.2%の方が「戻ってくる予定はない」、35.5%の方が「わからない」と答えている。現在、町外に別居してい

なっているのではないかと思います。実際に、「高校に通うのも、駅まで出る必要があるの、送り迎えが必要で大変だ」という話を聞きました。町内では教育の選択肢が少ないので、町外に出る。会社に行くためにも、交通が必要なので、働く場所の選択肢も限られる。そうすると、そのまま町外で会社に勤めることになる。『働きに町に戻ろう』とは、なかなか思いつらいでしょう。どうしても通学で外に出なくてはならないのなら、仕事をする段階で「町に戻ってきたい」と思うことが必要なのだ。でも都会のような働き口はない。

人口の『減り方の質』しだいで、愛着の向上が見込める可能性も

しかし、悲観することばかりではないという。風間さんは続ける。「人口減少は、ときがわ町だけに特別に起きている『問題』ではなく、日本全体で起きていること。『人口現象』です。そこで大事なのは、『減り方の質』です。それは、どういうことか。

「出ていく方も、交通以外の生活環境が原因で出る方は比較的少ない。食べ物もおいしく、自然環境は豊か。だから、移住してくる方も多い。特に、働き盛

お話してくれたのは…



風間 崇志 さん

地域の課題をチャンスに変えて、ともにしごとをつくる「地域プロジェクトパートナー」。屋号は「まなびしごとLAB」。共著に「地域でしごと まちづくり試論」（まつやま書房）がある。本が好き。

る子どもの7割近い方が、町から離れる可能性が高い状態なのだ。

原因は『交通の不便さ』と、高校・大学・仕事の選択肢の狭さ

「町外に出たきりになってしまいう主な原因は、『交通の不便さ』です。高校や大学が町内にないので、町外に通うしかな。すると、そのまま町外で仕事を始めることが多くなります」と教えてくれたのは、『地域の課題をチャンスに変えるプロ』でもある、風間崇志さん。「やはり、駅までの交通がネックに

りで移住してくる方は、交通のことは承知のうえで、それでも環境（自然の魅力+地域の魅力+人の魅力）を求めてやってくる。魅力が不便さを上回ります。すると、町への愛着を持つ方が相対的に増えていくのです。さらに、その移住される方たちが魅力的で輝いていけば、その人たちに惹きつけられる『二次移住』も考えられます。つまり、『良い減り方』をしていくためには、私たちが町の環境の魅力に気づき、それを大事にしていくことが大切だということなのだ。

とはいっても…

娘と息子の二人とも、都内で仕事をするために家を出ました。少し寂しいですけど、自分たちの人生だから仕方ないですよ。子どもたちは、戻ってきたい気持ちがあるらしいのですが、実際はどうなるのでしょうか…。

Mさん（大学玉川）